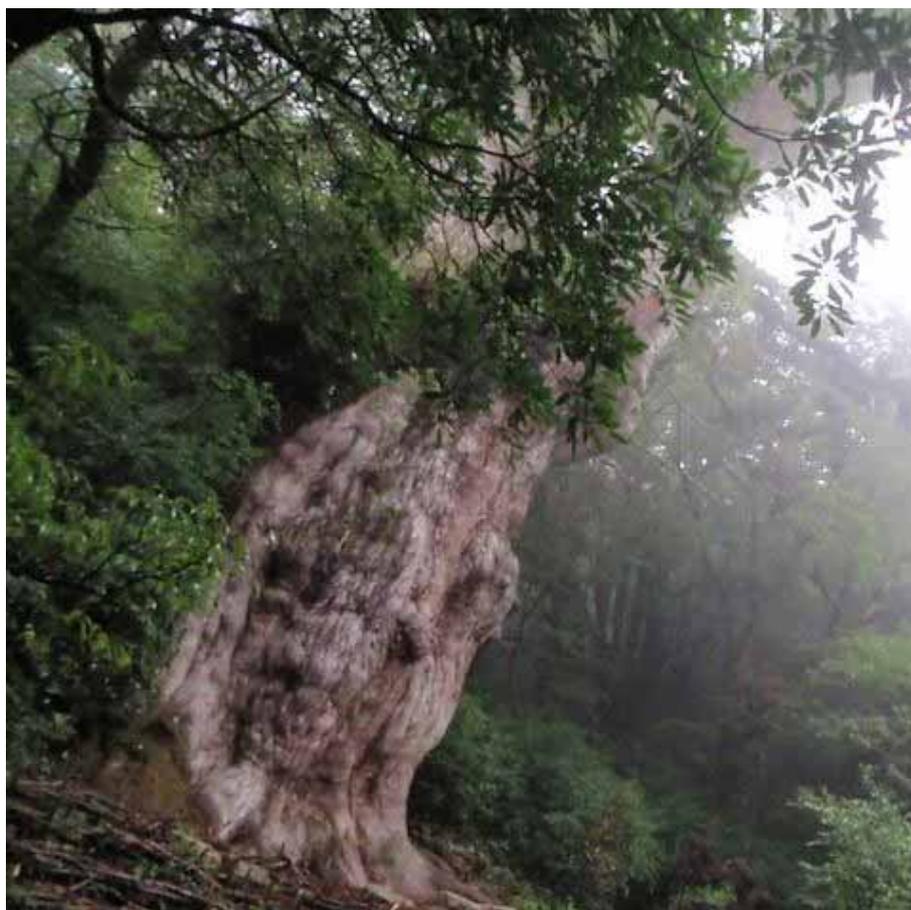


# やくしまに暮らして

ネイチャーガイド 大野 睦

## 第一章 なぜ屋久島なのか



### 世界自然遺産登録のなぜ

縄文杉に象徴される屋久島の自然。縄文杉を守るために世界自然遺産に登録された訳ではない。1993年屋久島は白神山地とともに日本で初めて世界自然遺産に登録される。1992年、日本が世界遺産条約し

てすぐのことであるがユネスコが世界遺産条約を採択したのは1972年。日本の時代背景として高度経済成長の真只中。日本社会では自然保護に対して関心は薄く意識に大きな遅れがあったと考えられる。その2年前、屋久島では国有林の屋久杉伐採事

業の終焉を迎えている。林業などの第一次産業が廃れていく時代でもある。伐採事業が終わることのでひとつの節目を迎え、屋久島の価値というものを見直すべき時代がやってきたのかもしれないが、当時の屋久島では観光産業の占める割合はわずか6%だったと言われている。屋久島が世界自然遺産に登録されて10数年が経ち現在では観光産業は60%を超えているが間接的な事業者も含めるとかなりの割合になるとの見解もある。現在の屋久島を支える観光の目玉である世界遺産。



屋久島の世界遺産としての価値たるものは『世界的に特異な樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や絶滅のおそれのある動植物などを含む生物相を有するとともに、海岸部から亜高山帯に及ぶ植生の典型的な垂直分布が見られるなど、特異な生態系とすぐれた自然景観を有している地域である。以上のことから「陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や生物群集の進化発展において重要な進行中の生態学的生物学的過

程を代表する顕著な見本である。」とともに、「類例を見ない自然の美しさ、あるいは美的重要性を持ったすぐれた自然現象または地域を包含する」と判断され世界遺産一覧表に登録された』と記されている。離島であったことと国有林の割合が非常に高いことは伐採事業の撤退後に屋久島の開発を押し進められなかった大きな要因となり、結果今の屋久島の自然があると言えるが江戸時代に年貢を納めるための伐採から始まり昭和40年代まで続いた屋久杉伐採の歴史。その時代背景を経た今の屋久島の森は決して手つかずの森ではない。人々が山の神を敬いながら自然とともに暮らしてきた歴史の刻まれた森である。人と自然がともに生きてきた証が森に残り、また原生の森と伐採の歴史からの再生の森が見られる。現在、屋久杉の生木の伐採は禁止されており、縄文杉などの著名木については樹勢回復措置が行われている。また観光産業の発展による入山者の増加、環境負荷など新たな問題も出てきているが、世界遺産登録による課題と現状については、また後にふれたい。

### 屋久島移住のなぜ

大阪で生まれ育った私が屋久島に出会ったのは二十歳の時である。奇しくも世界自然遺産に登録される半年前の1993年6月のこと。それまでの私にとって屋久島は教科書に掲載されていた縄文杉と、日本一のウミガメ産卵地であること、ということしか知らない。当時動物園の飼育員として勤



めていた父がニホンザルの生息の南限地である屋久島にその生態などを観察に行くという。時期は屋久島でのウミガメ産卵最盛期。旅費は後からバイトして半分は返済するから何はともあれ連れて行けと懇願。それが私の屋久島初上陸となる。

屋久島初上陸から10年前の小学5年生の夏に和歌山のみなべ町で初めてウミガメの産卵を観察した私は、その生き物に心を奪われてしまっている。その後も毎年夏になればウミガメに会いに出かけていた私にとって屋久島は憧れの地。父と一緒にサルを追ひ、カメを追ひ、山を歩いて過ごした。一週間の屋久島滞在で私は「大学を卒業したら屋久島に住みたい。」と自分の生きてゆ

く場所を決めている。なぜ屋久島だったのかと聞かれれば「海があって山があって川がある。そして自然とともに生きる人々の暮らしがある。ニッポンの景色がここにあると感じたから」生まれ育った大阪など都会ではなく、日本のどこか自然の豊かな場所で仕事をしたいと考えてはいたが、どこで生きてゆくか悩んでいた時期だった。初めての屋久島から2年後、自分の決意がどれだけ本気なのか自ら問いかけるように今度はひとりで屋久島へと向かう。一ヶ月間ウミガメ生態調査ボランティアに参加しながら屋久島での仕事や住まいなどを探した大学生生活最後の夏。そして当時の屋久島ではまだまだ認知度の低かったネイチャーガ

イドとして採用が決まる。その仕事は日本の自然の素晴らしさと、そこに生きる生物の現実をたくさんの人と一緒に考えてゆきたい、と思いきたいと望んでいた仕事である。

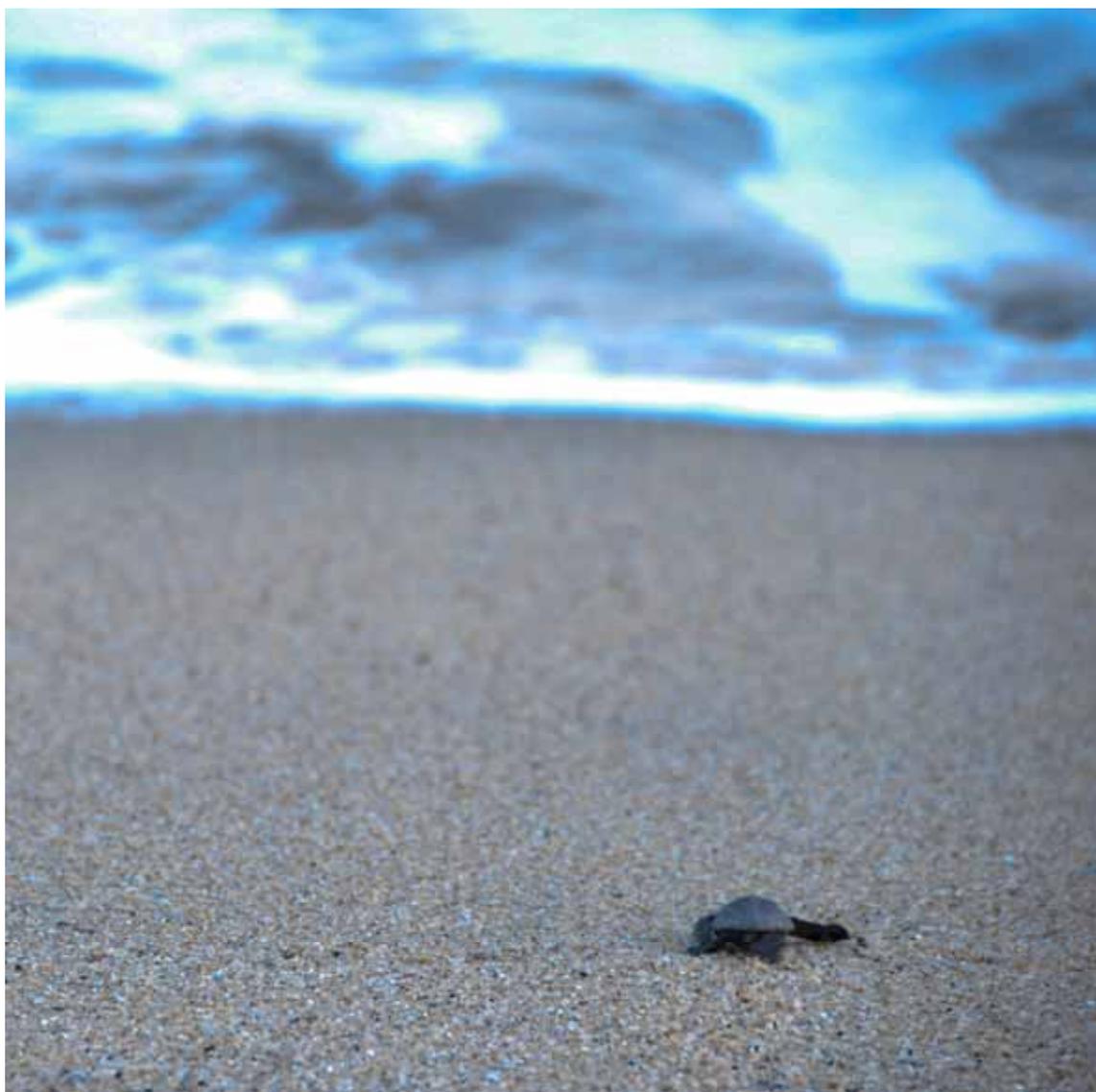
縄文杉が今生きる意味や、ウミガメが生まれてすぐに海へまっすぐ向かう意味。

私たち人間が知っていることは極わずか。

でも私たち人間が出来ることはまだまだたくさんある。一緒に考えることから始めてみませんか、そう問いかけることで相手の心に伝わるものが何かひとつあれば嬉しい。



人は知ることによって優しくなれるから。その優しさから溢れる笑顔がまた次の人へ伝えられ広がってゆくことで変わるものがあるのではないかと信じている。



人間の、自然の、何が本来の姿なのか、それを屋久島で考えながら生きていきたいと思ひ辿り着いた屋久島であるが、移住したばかりの頃は屋久島で3年やってみて、もし他に行きたいところが出てきたらそれはまたその時に考えれば良いと思っていた。しかし現実には認めてもらえるのに3年はか

かる。3年経って独立し、もうちょっと頑張ってみようと思う。5年経てば屋久島に骨を埋めたいと思うようになる。10年経って念願の自分の家を持つ。

気が付けばやくしまに暮らして15年。

大野 睦 BLOG やくしまに暮らして  
<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>

